

文化

日中韓文化交流フォーラム

アジア文化の新たな道を拓く



「シルクロードを行くキャラバン(東・太陽)」172×360cm 平山郁夫シルクロード美術館所蔵

財団法人文化財保護・芸術研究助成財団

日中韓の歴史に 友好のページを加える文化交流への助成事業

『日中韓文化交流フォーラム』は、「財団法人文化財保護・芸術研究助成財団」の事業である。その高い理念と三国間協力による、相互の文化発展と平和促進に役立つ活動へ期待を込めての助成となった。

『日中韓文化交流フォーラム』は日本・中国・韓国、三国間の文化交流および、共同研究などを通じて、相互理解を深化・促進することを目的に、「文化財保護・芸術研究助成財団」(理事長 平山郁夫氏)によって発足した民間ベースの文化交流事業である。

東西の文化と文明の交差点であったシルクロードを介し、それぞれの三国は物心両面の恩恵を受け、消化し、それぞれに独自の文化を築き、認めあい高めつつ発展してきた。しかし一方で、戦争などの不幸な歴史があったのも重い事実である。

ただ政治の世界における摩擦や不信ばかりでは、真の友好をもたらすことにはならない。

長い歴史の絆を尊重しつつも、過去の事実を冷静に認識した上で、民間レベルによるより積極的な文化交流事業の実践・展開が、日中韓相互の学術、文化発展に通じ、東アジア全般の文化交流に寄与する不可欠な活動との構想と理念からスタートしたのが、『日中韓文化交流フォーラム』である。

同フォーラムは平成17年(2005年)12月6日、ソウルで発足式並びに第1回全体会議を開催。

日本代表・平山理事長、中国代表・劉徳有氏(中国文化部元副部長・中国対外



前列左から劉徳有氏(中国)、金容雲氏(韓国)、平山郁夫氏(日本)



大きな一歩となった第1回全体会議

文化交流協会常務副会長)、韓国代表・金容雲氏(数学者・韓日文化交流会議委員長/第1回全体会議座長)ほか、三国の有識者が出席し、多彩な文化交流事業を関係団体と協力しつつ、民間主導で幅広く展開、促進していくことが確認決定された。

フォーラムの全体会議を三国持ち回りで開催することもこの会議で決まり、平成18年(2006年)度は中国、平成19年(2007年)度は日本での開催が予定されている。

韓国の新聞にも大きく報じられた



三国協力による多様な活動が相互理解を深め文化を発展させる

『日中韓文化交流フォーラム』は、様々な活動を行っているが、現在進行中のプロジェクトは以下のとおりである。

●くサムスン・シルクロード文化財保護フェローシップ

中国で文化財保存に従事する研究者や技術専門家100名を5年間で育成することを目的としたプロジェクト。平山理事長の提唱する[文化財赤十字構想]に賛同する韓国の多国籍企業サムスングループの日本法人が立ち上げ、資金面での支援を行い、日本の専門家も教育・実技分野で協力する。



の日本法人が立ち上げ、資金面での支援を行い、日本の専門家も教育・実技分野で協力する。

平成17年(2005年)9月には中国・国家文物局と正式調印が交わされ、シルクロードの要路にあたる新疆など、辺境地域の保存現場経験者などを対象とし、将来の現場リーダー育成を主眼とする研修が、すでに平成18年(2006年)4月から開始されている。

●〈日中韓保存修復科学国際会議〉(仮称)

文化財保存修復に関わる三国の専門家が集まり、保存修復技術、周辺環境などについての意見交換・発表を通じ、共通あるいは相違点を明確にしつつ議論を深め、保存修復への相互理解を高めることが目的。平成18年(2006年)9月、九州での開催が予定されている。

●〈日中韓の学生による短編映画製作企画〉

三国学生の共同作業によるプロジェクトで、すでに始動。東京芸術大学大学院



映像研究科(日本)、北京電影学院(中国)、ソウル国立映像センター(韓国)の学生がチームを組み短編映画を製作。

次代を担う若者たちが協力し合うことで、相互の文化理解が図られ、とともに、若い感性あふれる映像作品の誕生が期待されている。

平成19年(2007年)夏に完成し、三国で作品の上映が予定されている。



〈赤十字精神〉を世界の文化財の保護・保全に生かす

■「財団法人文化財保護・芸術研究助成財団」とは

平成16年(2004年)4月に事業・活動内容に共通点が多い、文化財保護振興財団と芸術研究振興財団とが統合して発足。

同財団平山郁夫理事長が1980年代から国内外に[文化財赤十字構想]の推進を提唱しており、これは自然破壊や戦乱による人為的脅威下にある人類共通の貴重な文化遺産を保存修復し、民族や国境を越えて後世に残し伝えていくという、赤十字精神による地球規模の文化救済構想である。

この[文化財赤十字構想]の理念を軸に、文化財の保護・保全、研究調査など各種事業が展開されている。

■主な事業内容には

◎国内助成事業
文化財建造物や美術工芸品の管理、修理、環境整備、公開
研究者の調査研究、保全に関わる専門家育成、芸術研究活動など

◎国際交流・協力事業
シルクロード周辺地域の文化遺産に対する人的・技術的資金援助
海外収蔵の日本美術品保護のための技術協力、支援など

他に顕彰事業、普及・広報事業がある。

「日中韓文化交流フォーラム」今後の事業

- ・日中韓、サッカー交流戦とセミナー
北京オリンピックに出場する三国のサッカー代表選手(U-21)による交流戦がホーム&アウェイ方式で行われることが決定。1回目の日中戦は8月に中国で開催される。
- ・日中韓、書道交流展(予定)
- ・三国からソリストを招いてのクラシック音楽ジョイントコンサート(予定)
- ・漆芸、茶器の三国作家展(予定)

事業の状況

富野行方が第1条の定めに従い
■文化財の管理、修理、復旧、整備、展示、公開、伝承者の養成等保存及び活用のための事業の実施並びに芸術研究に係る諸活動の推進に開き、次の助成事業を行った。

- ① 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ② 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ③ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ④ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ⑤ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ⑥ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ⑦ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ⑧ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ⑨ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理
- ⑩ 山形県 山形市 山形市立美術館の修理



次の助成事業を行った。
● 山形県立美術館関係助成
① 1998年12月10日付で合意された、人材育成等の援助計画に関する定章に基づき、山形県立美術館より研究員3名の招致助成
② 山形県立美術館の保存、修復に関する日中共同研究(東京文化財研究所 代表者 加藤 憲氏)
③ 山形県立美術館「山形県立美術館蔵品調査」を助成
● アンコール遺跡保存修復事業に関して次の助成を行った。
① アレ・アンコール、サンボー、プレイ、アック遺跡の保存計画および修復技術に関する研究(日本国政府アンコール遺跡共済チーム(USA) 団長 中川 武氏)
② モンゴリアにおける文化財専門家養成のためのプランベフプロジェクト(USA)団長 中川 武氏)
③ アンコール遺跡共済チーム保存修復専門家養成のための招致(受入機関 早稲田大学総合研究機構、ユネスコ世界遺産研究所)
● 在外日本古美術品保存修復協力事業に関して次の助成を行った。
① 在外日本古美術品保存修復事業に対する助成(東京文化財研究所 西長 壽本雄氏)
② 大英博物館サラ・バーアット氏を同里北京において「日本の古美術品(掛け軸)の装裱及び修復」研修のため招致
③ 同里北京 呉興太郎氏に、外国人研修員受入れに伴うチューター助成
④ エジプト・シナイ半島トウル・ラー地域遺跡の発掘調査、

⑤ 山形県立美術館の修理
⑥ 山形県立美術館の修理
⑦ 山形県立美術館の修理
⑧ 山形県立美術館の修理
⑨ 山形県立美術館の修理
⑩ 山形県立美術館の修理
⑪ 山形県立美術館の修理
⑫ 山形県立美術館の修理
⑬ 山形県立美術館の修理
⑭ 山形県立美術館の修理
⑮ 山形県立美術館の修理
⑯ 山形県立美術館の修理
⑰ 山形県立美術館の修理
⑱ 山形県立美術館の修理
⑲ 山形県立美術館の修理
⑳ 山形県立美術館の修理
㉑ 山形県立美術館の修理
㉒ 山形県立美術館の修理
㉓ 山形県立美術館の修理
㉔ 山形県立美術館の修理
㉕ 山形県立美術館の修理
㉖ 山形県立美術館の修理
㉗ 山形県立美術館の修理
㉘ 山形県立美術館の修理
㉙ 山形県立美術館の修理
㉚ 山形県立美術館の修理
㉛ 山形県立美術館の修理
㉜ 山形県立美術館の修理
㉝ 山形県立美術館の修理
㉞ 山形県立美術館の修理
㉟ 山形県立美術館の修理
㊱ 山形県立美術館の修理
㊲ 山形県立美術館の修理
㊳ 山形県立美術館の修理
㊴ 山形県立美術館の修理
㊵ 山形県立美術館の修理
㊶ 山形県立美術館の修理
㊷ 山形県立美術館の修理
㊸ 山形県立美術館の修理
㊹ 山形県立美術館の修理
㊺ 山形県立美術館の修理
㊻ 山形県立美術館の修理
㊼ 山形県立美術館の修理
㊽ 山形県立美術館の修理
㊾ 山形県立美術館の修理
㊿ 山形県立美術館の修理